

カリキュラム成績表は、整形外科専門研修カリキュラムの各項目毎に自己評価、指導医評価を経時的に記

	行動目標あるいは達成目標	専攻医1年目	専攻医2年目
I. 医師の法的義務と職業倫理 一般目標: 医師が守るべき法律と医師に求められる倫理規範を理解し、遵守できる	1. 医師法等で定められた医師の義務を知っている 2. 医療法の概略、特に療養担当規則を理解している 3. 医療行為に関する上記以外の法律(健康保険法・薬事法など)を十分に理解し、遵守できる 4. 医療倫理、医療安全の重要性を理解し実践できる 5. DOH(Declaration of Helsinki)、日本医師会の「医の職業倫理綱領」を知っている 6. 患者やその家族と良好な信頼関係を確立することができる		
II. 運動器の基礎知識 一般目標: 運動器疾患の理解に必要な運動器の生理学および病態生理学を修得す	1. 体幹・四肢の解剖を修得する。 2. 次の組織の正常組織像と各種疾患での病理組織像を述べることができる (1) 骨 (2) 関節 (3) 脊椎・脊髄 (4) 神経 (5) 筋腱・靭帯 (6) 血管 3. 骨代謝の概略を述べることができる 4. 骨折の治癒過程を述べることができる 5. 軟骨代謝の概略を述べることができる 6. 軟骨修復について述べることができる 7. 神経の変性と再生について述べることができる 8. 関節症と関節炎の病態の違いを述べることができる 9. 運動器のバイオメカニクスの概略を述べることができる		
III. 診断基本手技 一般目標: 運動器疾患の正確な診断を行うための基本的手技を修得する。	1. 病歴聴取に際して患者の社会的背景や QOL に配慮できる 2. 主な身体計測 (ROM, 四肢長, 四肢周囲径など) ができる 3. 骨・関節の身体所見がとれ、評価できる 4. 脊椎の身体所見がとれ、評価できる 5. 神経学的所見がとれ、評価できる (1) 徒手筋力テスト (MMT) (2) 感覚障害の検査 (3) 反射 6. 適切な X 線写真の撮影部位と方向を指示し、読影できる 7. CT の適応を理解し、適切に指示し、読影できる。 8. MRI の適応を理解し、造影の要否も含め適切に指示し、判定できる。 9. シンチグラフィの適応を理解し、適切な核種を選択して指示し、判定できる。 10. 電気生理学的検査 (筋電図, 神経伝導速度など) の適応を理解し、実施・判定できる。 11. 骨量測定の概要を理解し、指示・判定できる。 12. 超音波エコー検査の適応を理解し、実施・判定できる 13. 侵襲的検査を行う場合、患者・家族に説明し、同意を得ることができる 14. 侵襲的検査施行後の合併症を熟知し、予防的管理を適切に実施できる 15. 血液・尿生化学検査の適応を理解し、指示・判定できる 16. 関節造影, 骨髄造影の適応を理解し実施できる 17. 関節造影, 骨髄造影の適応を理解し実施できる		

	<p>18. 組織生検の適応と手技を理解し、指導責任者のもとで実施できる。</p> <p>19. 微生物学の基礎を理解し、細菌検査を指示・判定できる。</p> <p>20. 病理標本を顕鏡し、正常像と病的組織像の鑑別ができる。</p> <p>21. 関節鏡検査の適応を理解し、指導責任者のもとで安全に実施できる。</p> <p>22. 日整会各種機能評価判定基準を用いて評価できる。</p>		
<p>IV. 治療基本手技</p> <p>一般目標: 運動器疾患の治療を安全に行うためにその基本的手技を修得する。</p>	<p>1. 薬物療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる。</p> <p>2. 医薬品副作用被害救済制度を知っている。</p> <p>3. 麻薬管理に関する法律を理解し、適切に処方できる。</p> <p>4. 一般外傷を診断し、検査と治療の優先度を評価できる。</p> <p>5. 骨折や脱臼の徒手整復を正しく実施できる。</p> <p>6. ブラッシング、デブリドマンなど基本的創傷処置を正しく実施できる。</p> <p>7. 局所麻酔法を正しく実施できる。</p> <p>8. 伝達麻酔を正しく実施できる。</p> <p>9. 腰椎麻酔を正しく実施できる。</p> <p>10. 硬膜外麻酔を正しく実施できる。</p> <p>11. 全身麻酔の基礎を理解できる。</p> <p>12. 固定法(副子、ギプスなど)の基本と適応を理解し、適切に実施できる。</p> <p>13. 牽引療法の基本と適応を理解し、適切に実施できる。</p> <p>14. 理学療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる。</p> <p>15. 運動療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる。</p> <p>16. 作業療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる。</p> <p>17. 装具療法の基本と適応を理解し、装具や杖を適切に処方できる。</p> <p>18. 清潔操作(関節穿刺・注入や直達牽引など)が実施できる。</p> <p>19. 神経ブロックを安全に実施できる。</p> <p>20. 硬膜外ブロックを安全に実施できる。</p> <p>21. 局所解剖に基づいて手術の概要を述べることができる。</p> <p>22. 手術について、患者・家族に説明し、同意を得ることができる。</p> <p>23. 術前の準備(患者と患肢の確認、体位、手洗いなど)を適切に実施できる。</p> <p>24. 運動器の基本的な手術手技(鏡視下手術を含む)に習熟している。</p> <p>25. 骨移植の種類を理解し、その適応を判断できる。</p> <p>26. バイオマテリアルの種類を理解し、その使用基準を判断できる。</p> <p>27. 患者・家族に手術の内容と術後合併症の可能性などを説明できる。</p> <p>28. 術後合併症を熟知し、予防的管理を適切に実施できる。</p> <p>29. 手術記録を適切に作成できる。</p> <p>30. 術後のリハビリテーションを適切に処方できる。</p> <p>31. 在宅医療・社会復帰などにつき、メディカルスタッフなどと協議できる。</p>		
<p>X. 医療記録</p> <p>一般目標: 医療記録は開示義務に基づき必要事項が正確に記載されねばならないこと、そして医療記録は個人情報であり、社会的にその管理責任を果たさねばならないことを理解・修得する。</p>	<p>1. 医療記録は社会的に開示を要求されるものであることを常に意識して正確に作成できる。</p> <p>2. 医療記録に対する厳重な管理責任が必要であることを理解し、その方策を立て、実施できる。</p> <p>3. 運動器疾患について正確に病歴が記載できる。記載内容: 主訴、現病歴、家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴、アレルギー歴、内服歴、治療歴など。</p> <p>4. 運動器疾患の身体所見が記載できる。記載内容: 脚長、筋萎縮、変形(脊椎、関節、先天異常)、ROM、MMT、</p> <p>5. 検査結果の記載ができる。</p> <p>記載内容: 画像(X線像、MRI、CT、シンチグラム、ミエログラム)、血液生化学、尿、関節液、病理組織など。</p>		

	<p>6. 症状, 経過の記載ができる 7. 検査, 治療行為に対するインフォームドコンセントの内容を記載できる 8. 手術記録を適切に作成できる. 9. 紹介状, 依頼状を適切に書くことができる.</p> <p>10. リハビリテーション, 義肢, 装具の処方と結果が記録で 11. 障害認定(労災, 身障, 交通災害, 年金)と診断書の種類と内容が理解でき, 適切に記載できる</p>		
<p>VII. 研究・発表能力</p> <p>一般目標: 臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲をもち, その結果を科学的に導き出し, 論理的に正しくまとめる能力を修得する.</p>	<p>1. 経験症例から研究テーマを立案し, プロトコールを作成できる. 2. 研究に参考となる文献を検索し, 適切に引用することができる.</p> <p>3. 結果を科学的にかつ論理的にまとめ, 口頭ならびに論文として報告できる. 4. 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意で 5. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる. 6. 適切な統計学的手法を選択し, 解析できる</p>		

年目後期

指導医名

指導医評価	指導医評価
-------	-------

